

SC-IB News '18.03 No.14

コミッショナー &事務局通信



<http://www.scout-ib.net/>

◆ 標準団を目指すということ その13

“まずは、地域の方へのあいさつからはじめよう!!”

先日の2月4日の指導者のついでには、「ちかい」と「おきて」そして「スカウト精神」への理解を深める取り組みをしました。そこで強調されたことは「スカウトは信頼されることを名誉とする」ということでした。「ちかい」と「おきて」そして「スカウト精神」もすべてが「信頼」を得るところからスタートすることを確認しました。これはスカウトに限らず隊、団の全ての指導者にも当てはまります。

また、スカウト教育の7つの要素が、8つの要素に変更になります。新たに増えるのは「地域社会との連携」です。今まで地域との連携は大きな柱の1つでしたが、改めてスカウティングの基本原則として位置づけられました。地域と連携するにあたって、まずしなければならないことは「ボーイスカウトという言葉は知っている、けれども何をしている団体なのかは知らない。」という現状を解決することです。どんな団体なのか分からないのであれば、それでは「信頼」は得られません。



まず、地域にボーイスカウトの存在とその活動を知ってもらう方法としては、「広報」という方法が思い浮かびます。組織としての信頼を得るためには全ての団の情報を載せることが大切だということで、12月の理事会で各団宛に、「県連ホームページに各団の情報を掲載しましょう。そのデータをください。」というお願いをしました。現在、少しずつ集まっています。

全団掲載を目指していきましょう。

次は、よく言われていることですが「露出」を多くすることがあります。制服姿で街中を歩くということです。これは各団ともやっていますね。しかし気をつけてください。そこにはスカウティングスピリッツ、そうスカウト精神が表れていなくてはなりません。それに反する例を挙げると、▶電車やバスなどの公共交通機関を利用する際のルール。ドアが開いた瞬間に駆け込んで席を確保したり、電車の中で騒いだり、走り回ったりするスカウト、それを放置する指導者。▶歩道を縦に並ばず、横に並んで歩く。他の歩行者のことはおかまいなし。▶制服をだらしく着る…等です。そのようなスカウトを見た地域の人は「なんだ、ボーイスカウトって、良いことをする団体じゃないのか?！」と思うのです。

「何をしているのかは知らないけれど、何か良いことをする団体なんだ」が一般の人のイメージです。そのため、連盟に届く苦情の多くは、「ボーイスカウトなのに××をしていた、どういう教育をしているんだ!」なのです。

このような苦情は、実は大変ありがたいものでもあります。上記の例で言うと「良いことをする」「しつかけが行き届いている」というイメージを地域社会が持っているということです。そうであれば、まず、そのイメージ通りの姿を見せることが、ボーイスカウトを理解する第一歩になるのではないのでしょうか。例えば、いきなり、募集のちらしが届けられて、そこに「ボー



イスカウトはたくましくて、優しく、豊かな子どもを育てる」と書かれていても、反応は「ふーん、そうなんだ…。」だと思われます。ところが、スカウトの好ましい姿を見た後では、「ああなるほど!」と納得する、そう、受け入れてもらえるわけです。これは大きな違いですよ。

このようなひとつひとつの積み重ねが、この運動を地域の人々に理解していただくことに繋がっていくのでしょうか。



3つ目は、2つ目のことを、更に印象づけるための取り組みです。実に簡単なことです。「スカウトは、感謝の心を持つ」です。そう、挨拶と返事を習慣化しましょう。今の子ども達を見ていると、その習慣が定着していないように思われるのです。活動の時だけでなく、普段の生活でも、それを実行するように団・隊として取り組みませんか?

「おはようございます」「こんにちは」「こんにちは」「はい」「ありがとうございます」「いただきます」「ごちそうさまでした」「わかりました」。たった、これだけのことです。

そうは言っても、実際には、最初はなかなか声が出せないものです。ですが、「えいやっ!」と心を決めてあいさつすると案外簡単だったりするのですよね。そして、そこからコミュニケーションの輪が広がっていくのです。



私は、毎日朝晩1時間ずつ、愛犬マックスと散歩をしています。すれ違う皆とあいさつをしています。たまには無視されることもあります。ほとんどの人は返事を返してくれますし、また、返事をしなくても何らかの反応があります。そこから立ち話に発展することもあります。近所の子ども達とも顔なじみとなりましたし、もちろん近所の方々とも。(犬のおかげです。)

先日、引越しをしてきたAくんのお母さんに呼び止められました。転校生ということで、友だちができなく、どんどん学校に行くのがいやになり、性格も暗くなっていて、どうしようかと悩んでいた。マックスのおかげで昔の笑顔に戻ったとお礼でした。そのAくんとはマックスとの散歩の途中で出会い、あいさつをきっかけに、毎日登校の途中で待っててくれるようになったのです。あ

る日なかなか学校に向かわないので、どうしてかなと思いつつ、散歩コースを変えて一緒に学校に向かっていくと、登校する子ども達の待合場所がありました。そのときその子の表情に驚きが見えたので、「ははあ」と推理しました。そこで、Aくんに集まっている子どもたちにマックスを紹介してくれるように頼んだのです。リードを一緒に持って歩いていくと、案の定、子ども達はマックスに興味を示し、Aくんは「マックスって言うんだ」から始まって、すんなりと子ども達の輪の中に入ることができたのです。まあきっかけ作りです。その大元のきっかけはあいさつだったわけです。



ゆとり教育の変な誤解と展開から、子どもの個性がおかしな方向で尊重されてしまいました。個性を尊重することは、自由に振る舞うことでも、振る舞わせることでもありません。まずは、きちんとした躰によって、きちんと社会規範やルールを身に付け、思いやりの心を持つこと等を習得させ、カブ隊のさだめではないですが、良き習慣を身に付けられて、はじめてその子どもの「良い個性」となります。

個性はコミュニケーションと同様に、相手の存在というものが不可欠です。つまり、「他人の個性に配慮できること」が個性の大切なポイントとなってきます。自分と友人はどんな点で違うのか、その「違い」にしっかりと注目することは、相手をより深く理解するための進歩であり、他人の個性を認めていくことで自分を高められ、それによって今度は自分なりに他人のために貢献できるようになり、自分の役割の発見に繋がるわけです。それによって、自分自身が成長していきます。

このように、お互いの個性を認め合おうとすれば、そこには自然に社会が生まれます。そこではコミュニケーションが非常に重要になり、相互協力の下で積極的に社会が構築されていきます。そのきっかけ、第一歩となるのが、あいさつや返事なのではないでしょうか。それってとても大切なものですよね。地域社会においてボーイスカウトの位置づけを確かなものにするためにも。そして、標準団を目指すためにも。

そう思ったら、あいさつ、始めましょう!!
だれから? まずは指導者から!!

□ 明日のための、その2

提出&申込期限等の厳守 “再び”

標題の通り、各種提出期限・申込期限を守ることは、12月の理事会で伝え、地区から各団へと連絡されているところです。

さて、1月になり、指導者のつどいの参加申込があまりました。残念なこと、期限を過ぎてからの申し込みが2件ありました。1件は何の連絡もコメントもなく単に送られてきただけでした(某地区委員長の団からです)。もう1件は、団委員長が事務局に電話で遅れた理由を説明され、参加できるように懇願されました。

結論は、前者は参加をお断りし、後者は妥当な理由でしたので、参加いただきました。

「メ切を過ぎて提出された場合は、受付をしません」ということは、全てをお断りすることではありません。スカウター(スカウティングを実践する人)として期限を守ることを遵守する姿勢と実行、すなわちあるべき基本の態度で行こうということを、改めて考え、持っていたら、実行していこうものです。

実行にあたり、以下をご確認ください。

①事務局等への提出・申込書類について

提出期限が指定されているものにつま

まは、全ての提出書類を整えて、提出期限日までに所定の届け先に提出します。

②コミッショナーの推薦と署名捺印が必要な申込書類について

ジャンボリー参加申込等の「地区コミッショナー」や「県連盟コミッショナー」の推薦及び署名捺印が必要なものについては、メ切時にその署名捺印を得ていることが必要です。

③ウッドバッジ研修所への参加申込書類について

ウッドバッジ研修所への申込みについては、今後は、全ての提出書類を整えて、地区コミッショナーに提出期限の日までに提出します。期限厳守です。ご注意ください。

※①②については、万一期限に間に合わない場合は、必ず事前に提出先に電話(メールは不可)をして、直接担当責任者に事情を説明してください。妥当な理由であれば受理される可能性はあります。③は期限厳守です。

◆ 次回指導者のつどい 6月2日～3日 (予告)

その次の県内統一ラウンドテーブル第2弾! 6月「指導者のつどい」は……

「楽しい“外”あそび その1」

のテーマのもと、1泊2日で、指導者だけのゆる～いキャンプをしながら、いろいろな活動に役立てられるプログラムを自発的に楽しんじゃいます。

みんなで楽しいプログラム(外遊び)を教え合いっこしませんか。

(↓こんなイメージです!!)

- 隊や団の単位で、自由にキャンプ。(キャンプ用具と食材は一式持参)
- 夜ご飯は自由に交流。
- みんなでプログラムを持ち寄って「この指とまれ」方式で参加を募って実施。
- キャンプファイアも、演目自由。
- 自らすずんで積極的に参加しましょ。

6月2日(土)～3日(日)で
場所は 高萩スカウトフィールドを予定。

◆ 指導者のつどい “ちかい” と “おきて” と “スカウト精神”

今年の指導者のつどいの第2回目は、2月4日に「ちかい」と「おきて」と「スカウト精神」のテーマで実施しました。

この「ちかい」と「おきて」と「スカウト精神」は指導者だけでなく、スカウトを含むこの運動に関わる全ての人々がしっかりと理解をしていなければならないものです。

しかしながら、私たちはどうしても難しく考えてしまい、また難しく伝えるコトで「私はちかいとおきてをちゃんと理解しているんだぞ」と偉そうに振る舞っている人をなんとなく認めてしまっているようです。それは違います。「ちかい」「おきて」や「スカウト精神」は、「誰でもが理解できる」ものでなければ、スカウティングの根幹にはならないはずです。

ということでつどいの準備に取りかかったコミッショナー達（コミ以外にトレーナーも動員されました）でした。県コミから提示があったのが10月末。「ただの説明ではなく、楽しく学べるもので、持ち時間は10分間！」との無茶振りでした。自己研究の後、12月に研究会を実施して相互に理解を深め、それを基に1月にプレゼンの準備を行い、当日を迎えました。

この「ちかい」と「おきて」と「スカウト精神」というテーマは、ウッドバッジ研修所のセッションで、スカウティングの基本原則の中で学

びますが、その短い時間ではなかなか「これは！」という理解には至らないでしょう。その後、指導者が自分で理解を深めたいと思っても、適切な資料がなかなか見当たりません。

このつどいのために、県コミから講師陣に1つの資料が渡されました。それは「！」なものでした。私たちの先輩達が理解を極めたもので、一言で言えば「難解」そのもの。「楽しく」に真っ向から逆行するもので、「奥深く意味を伝えなくてはならないの?」「趣旨は『楽しく』だったはずなのに・・・」「なんじゃこりゃあ」と、講師たちはと大混乱でした。そんなこんなの中で、それを一生懸命に咀嚼して、腹落ちさせて臨んだ「指導者のつどい」でした。

つどいの参加者は18名。やはり少ないですね。まあ「人は易きに流れる」ものです。テーマがテーマだからでしょうが、お知らせの仕方が良くなく、参加への意識づけの工夫できなかったことは反省です。

さて、研修においては、講師は指導者の目を見て話す「アイコンタクト」が大切とされています。けっこうな場数を踏んでいるコミッショナー&トレーナーでしたが、今回の参加指導者の「眼」には、ちょっとビビってしまいました。それほどまでに、この18人の指導者は、とても熱心に聞かれて、ちかいとおきて、スカウト精



神の本質を掴もうとする食い入るような姿勢がみられました。とても嬉しいことでした。

展開の内容には、まだまだ改善する余地があるものではありませんでしたが、参加指導者・そして講師共々、確実に「ちかい」と「おきて」と「スカウト精神」への意識と理解を高められた「指導者のつどい」になりました。

■ 仲間と参加した指導者のつどい

ビーバー隊長 Sさん

私はしばらく指導者を離れて、団委員としてこの運動に関わっていましたが、今回、指導者として活動をする事となり、初心に戻り学びなおしとして研修に足を運ぶこととなりました。

今回の指導者のつどいでは、スカウト運動の根本である「ちかい」と「おきて」についてでした。自分がどこまで分かっているのか、またその意味について改めて学ぼうと思いましたが、内容は非常に深く複雑な内容でしたが、県、地区のコミッショナーの方々のトークに楽しく学ぶことができました。

研修は、自ら『行ってみよう』と目的をもって参加することが大切だと思いますが、本音のところなかなか自発で参加を決める勇気の出せない仲間もいると思います。そこで、自分が参加を決めた時には仲間にも声かけするようにしています。1人で参加するよりも、仲間と参加すれば共有ができます。そして、団に持ち帰ったときに役に立ちます。何より研修の場に行くことで多くの方々と話ができて楽しいです。

楽しんでスカウト運動をすることは、スカウトへも良い影響を与えることができると思っています。

■ 指導者のつどい「ちかいとおきて・スカウト精神」に参加して

ベンチャー隊隊長 Fさん

今回のつどいは「ちかいとおきて」をじっくり学ぶことでした。

そういえば、上進式でスカウトたちが毎年苦労している姿を見ます。集会時などに唱えたりしても、「文言」をそのまま覚えようとするから、しみ込んでいないのでしょう。

講師陣が入れ替わり立ち代わりする話を聞きながら、スカウトの顔を思い浮かべ、自分たちの活動やプログラムを振り返り、さらに自分自身も省みて、「ちかいとおきて」について自分なりのイメージをふくらませてみました。独善的解釈では困りますが、スカウトに分かるようにかみ砕いて伝えることが指導者には求められるのではないかと思います。

「良き社会人を育てる」ボーイスカウト運動においては、指導者が身近な社会人としてグッドモデルとなるとともに、隊や団の活動の中で、あるいはソングを歌う中で、自分たちのしたことやその時の気持ちがまさに「おきて」に結びついていることを、スカウトたちにさりげなくしみ込むように伝えていきたいと思います。

「普段の生活に、不断のそなえ」そんなことを、学べた立春の一日でした。

◆ ウッドバッジ研修所スカウトコースの参加手続き、課題研修の課題が変わり、キャンプ講習会が不要となります。

ようやく県連の事業日程がまとまってきました。今年のウッドバッジ研修所は10月に行われます。参加を予定されている方は、いくつか変更点がありますのでご注意ください。

春に参加を予定されている方は、近隣県連のウッドバッジ研修所にご参加ください。

●変更点

- ① 申込書の提出先は地区コミッショナー
- ② 課題研修の課題が変更された
- ③ それにより、事前研修が必須となった
- ④ 「キャンプ講習会」が必修ではなくなった。

それでは、変更点を含めて順に説明します。

○まず、事前訓練に参加する

隊指導者の「基礎訓練課程」であるウッドバッジ研修所（「WB研修所」と表記）は、隊指導者として「スカウト訓練の方法」と「隊の運営」の基本を習得することを目的に開催される、全ての隊指導者を対象とした研修です。

このWB研修所の参加にあたって、指導者として持つべき意識と精神を知り、参加に必要な知識・スキル、態度を備えるのが、この「事前訓練」です。「課題研修」が変更になったため、ここでその指導を受けることになります。

●対象者（下記要件を全て満たすこと）

- ・直近のWB研修所に参加を予定している者（WB研修所の入所条件は、茨城では開催初日においてBS講習会を修了後、3ヶ月以上経過し、かつ隊活動を経験していることが必要となります）。
- ・所属隊長、団委員長の同意がある者。
- ・18歳以上のRSは、隊指導者等を兼務、もしくは、1年以内に就任予定であれば参加可。
- ・既にWB研修所を修了した隊指導者が「役務変更」のため等にスカウトコースに参加する場合で、変更された課題研修を初めて行う場合は、事前訓練への参加が必要です。

●実施時期等

- ・指導者が所属する隊（部門）に関わらず、同時に開催します。
- ・訓練は、WB研修所申込み切日の1ヶ月ほど前の設定された日に、所属する地区内で地区コミが主催して実施されます。

●開催目的

WB研修所スカウトコースでの学習が十分にかつ効果的に行えるよう、その基礎となる基本理念や各種基本事項を事前に学習し基準レベルに到達させるとともに、指導者の在り方と

立場と姿勢について理解した上でWB研修所に臨むこと、また事前課題に対するレポート記述のために、その指導を受けることが目的となります。

●持ち物

- ・冊子「基本原則」、書籍「日本連盟規程集」、「スカウティング・フォア・ボーイズ」、筆記用具、その他指示されたもの。
- ・スキルトレーニング課題が未終了の方は、その履修に必要なもの。

●実施内容

- ・隊指導者とは、隊指導者に求められること、スカウティングにおける指導者の在り方について。
- ・スカウト運動の理念と日本連盟の方針について。
- ・WB研修所スカウトコースについて。
- ・隊のスカウト、保護者の現状について。
- ・事前に取り組んだ課題1と2の事後指導。この指導を受けてから課題をまとめて技術する。
- ・課題3にあるスキルトレーニング課目の履修確認。
※ロープ結び、地図とコンパス、刃物の取り扱い、野営技能の指定細目の修了が必要です。

●修了すると

- ・修了すると、トレーナーの認定とWB研修所への参加への地区コミの推薦が得られます。

○ウッドバッジ研修所に参加する

指導者基礎訓練課程は、指導者として、隊の運営の基本、スカウティングに対する基本姿勢、スカウト訓練の基本と方法、また、この運動に関わる者としてとても大切なスカウト精神の基本を修得することを目的としています。そのため指導者の必修研修と位置づけています。

この基礎訓練課程は、茨城県連盟では、

- ① 「課題研修」
- ② 「事前訓練」
- ③ 「WB研修所スカウトコース」
- ④ 「課程別研修」

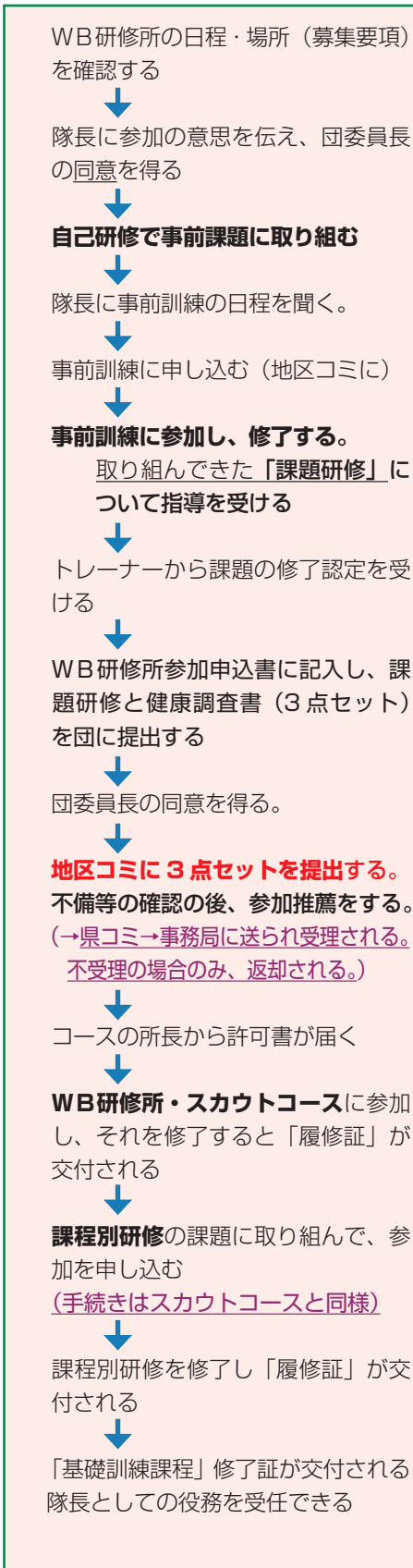
の4つのステップからなる一連の研修で構成されています（②は県連独自訓練です）。

●対象者（参加資格）

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟の加盟員で次の指導者が参加できます。（次頁に続く）

●参加の方法

「WB研修所に参加する！」と決めたら



- ・「事前訓練」を終了し、地区コミッショナーの推薦がある者。
- ・「課題研修」を全て終え、トレーナーの修了認定署名を得ている者
- ・参加申込みのメ切り日までに、参加申込みに必要な全ての書類を整え、団委員長の同意（署名）を得て、地区コミッショナーに提出できる者で、地区コミ及び県コミの書類の確認及び課題の確認により両者の推薦（署名）を得られること。
(地区コミまたは県コミの確認の時点で修正指示があった場合には、指定された期日までに再提出が必要です。)

●実施時期等

- ・所属する隊に関係無く、すべての指導者は「スカウトコース」でボーイスカウトの基本を学習します。
- ・スカウトコースは3泊4日のキャンプで実施されます。
- ・課程別研修はスカウトコース後に開催され、指導を担当する部門のコースを選択し受講します。
※課程別研修は、スカウトコース履修日から1年以内に履修完了しなければ、基礎訓練課程の修了認定となりません。ご注意ください。

●開催目的

指導者が、この運動が求める各部門の正しいスカウト教育を推進することができるよう、スカウト教育の目的と原理と方法について理解を深め、スカウト訓練と隊運営の基本的方法を「スカウティングをいかに進めるか」の視点で、グループによるスカウトキャンプを通して指導者としての知識や基本技能、そして態度を習得します。

●持ち物

- ・WB研修所・スカウトコースには、指定された書籍やキャンプ用品が必要です。
- ・課程別研修では、キャンプ用品は不要です。
※詳しくは、参加案内をご覧ください。

●修了すると

- ・スカウトコースでは、WB研修所スカウトコースの履修証が交付され、ウォッグルが授与されます。
- ・課程別研修では課程別研修の履修証と基礎訓練課程修了証が交付され、その後、指導者訓練修了章を購入し着用できます。

○「キャンプ講習会」廃止しました。

キャンプ講習会は、ウッドバッジ研修所参加者のための必須研修と位置づけてきましたが、ここで学ぶ知識やスキルは、ウッドバッジ研修所スカウトコースの中でセッションとして取り扱われ

○変更された「課題研修」課目

課題 1

日本連盟発行書籍「基本原則」、「日本連盟規程集」教育規程第1章「一般原則」を読み、スカウト運動の理念と日本連盟の方針を理解し、指導を受けた内容を記述してください。

課題 2

スカウティング・フォア・ボーイズの第IX章、第III章、第I章、第II章の順に熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

課題 3

スキルトレーニングにおいて以下の項目を履修*し、指導を受けた内容を記述してください。

- (1) ロープワーク
- (2) 地図とコンパス
- (3) 刃物の取り扱い
- (4) 野営技能

*履修するスキルトレーニング課目一覧

○ロープワーク

- ① 次のロープ結びについて実演できる
- ・本結び
 - ・ねじ結び
 - ・引きとけ結び
 - ・すじかいしぼり
 - ・もやい結び
 - ・巻結び
 - ・角しばり

○地図とコンパス

- ① 16方位と方位角の呼び方をおぼえ、プレートコンパスを使用することができる。
- ② 地形図に座標軸および磁北線を記入し、座標読みができる。

○刃物の取り扱い

- ② ナイフの正しい使い方と安全について説明できる。

○野営技能（野営工作、野外炊事含む）

- ① 家型テントの設営、撤営と維持管理ができる。
- ② フライシート（タープテント）の設営、撤営と維持管理ができる。
- ⑤ 班の炊事に適する2種以上のかまどを使い、薪で炊事ができる。

ることになりました。そのため、キャンプ講習会をウッドバッジ研修所参加のための必須研修から外し、廃止することとしました。

しかしながら、セッションであっても懇切丁寧に1から教える十分な時間はありません。また指定された時間内に必要となるもの（テントや野営工作）を設置しなくてはなりません。そのためには事前に多少の実践経験が求められます。中でも保護者等からビーバーやカブの指導者になり、ウッドバッジ研修所に参加をされる指導者の場合、スカウトキャンプの経験がなく、きちんとしたキャンプ研修も受けていない方からは参加に対して「不安」との声もあります。

そのため、ウッドバッジ研修所での「スカウトキャンプに不安」を抱える指導者のため事前準備として、新たに任意参加の「**WB 研参加者のためのスカウトコースを100%楽しむスキル講座**」を開設します。ここでは、基本的な上梓の課題3のスキルトレーニング課目を履修していきます。

参加対象者は、原則として、直近のウッドバッジ研修所に参加を予定されている指導者としますが、他の指導者も歓迎します。日帰りの1日型の研修です。今年度は8月26日（日）に実施する予定です。

○新たな野営法の研修

また、県連の指導者訓練体系においては、キャンプ講習会を体系から外すことで、野営法の研修体系を組み直しました。他の研修と同じように「基本」→「STEP1」→「STEP2」の3段階制です。

「野営法研究会（基本）」は、ウッドバッジ研修所の修了者を対象とします。それは、研修所で学んだキャンプの知識やスキルに対して、「どうしてそうするのか」「どのようにすればより良いのか」といった観点で、実際にそれを行いながら、スカウトキャンプの基本をより深く検証・研究していこうという研修です。これまでの野営法研究会STEP1「理論&基本編」改編して、内容を上記のコンセプトにガラッと組み直したものです。

この新設に伴って、新野営法研究会STEP1は、これまでの旧野営法研究会STEP1「実践編」とほぼ同じ内容とし、また、野営法研究会STEP2はベンチャー部門で行われる高度なキャンプを取り扱うように、それぞれの位置づけを改正しました。

また、この野営法研究会をはじめとした、県連定型訓練体系については、「指導者研修の手引H30年度版」（4月以降に各団・各隊に配付予定）にも掲載し、ラウンドテーブルで詳しく説明する予定としています。



IVYリーグ ビーバー・カブ向け新プログラム発進! IB グランプリ 2018

昨年の10月のカブ・ビーバーラーは雨のために中止となり残念でした。そのリベンジを来年度に再度実施・・・と考えたのですが、事情により参加ができない地区があるとのことで、県内の全てのカブスカウト・ビーバースカウトが一堂に会することが出来ないのであれば・・・とカブ・ビーバーラーは断念しました。

そこで、ビーバー・カブ年代が夢中になれる何かいいプログラムはないかと考えていたら、おお、あるではないですか!! 「パインウッドダービー」という、無動力の手作り車を坂のコースで走らせてタイムを競う競技が!! これは、アメリカのカブスカウトで大好評のプログラムで、日本でも主に東京連盟で実施されています。しかし、いろいろと調べていくと、きちんとしたレギュレーション（競技規則）に基づいて実施しなければならないことや車体キットが約5000円と高価であることがわかりました。むむむ。

しかし、そんなことで引き下がる「楽しいもの大好き」のコミグループではありません。ない知恵を必死に絞って考えたのが、この「IVYリーグIBグランプリ」です。

各団におかれましては、カブ隊、ビーバー隊の年間プログラムに是非組み入れてください。実施日や場所は「地区」ごとに定めませんが、想定しているスケジュールは、下記の通りです。

- ①地区コミが実施計画し、お知らせする。
- ②夏前のラウンドテーブルで、規則を提示、確認し、実施日と場所を決定する。
- ③各団ごとにエントリーする。
- ④夏季キャンプや夏の活動で競技車を作る
- ⑤秋口に、各団・隊で「団グランプリ」を開く
- ⑥更に車を改良して、地区大会に臨む。
- ⑦IVYリーグが取材に行き、県facebookに即時掲載して、皆で盛り上がる。わーい!

● IVY リーグ IB グランプリ

まだ、詳細は決まっていますが、**現時点の構想**を説明します。4月までには、詳細を示すことができると思います。

● 競技車両「C1カー」「B1カー」の概要

競技車両は、スカウトが活動の中で手作りした車とします。

C1カーは、カブスカウトが原則自力で作ります（②③は隊で用意。保護者は指定の工程のみ手伝い可）。**B1カー**は、ビーバー部門の車で保護者の手伝いに制限はありません。

競技車両（案）の概要は次の通りです。

- ①**形式**：動力を持たない、4輪車であること
- ②**車体の材質**：木とする
- ③**車輪**：指定されたものを使用する。
- ④**車幅**：車輪を含む車幅は100mm以内
- ⑤**車長**：200mm以上300mm以内
- ⑥**車高**：200mm以内
- ⑦**車重**：〇〇〇g以内
- ⑧**車輪の固定**：指定された部材で、かつ、指定された方法で取り付ける
- ⑨**車体の形状**：
 - ③車体は、1つの木材を削り出す等加工しても、複数の木材を接合させても可
 - ⑥車輪は、F1のように車体の外側でも、ツーリングカーのように車体の内側でも可。ただし車長より出はならない
 - ⑩車体の形状・デザインは任意
- ⑩**車体のデザイン、色、表示するもの**：
 - ③車体のデザイン・形状・色は任意
 - ⑥車体の上部には、地区で定めたゼッケン（指定された番号）を表示する
 - ⑩また、大会スポンサーがある場合は、所定のステッカーを所定の位置に貼付しなければならない。

①車体に取り付けられるもの：

- ⑤デザイン上必要と思うもの。サイズ・重量の規定内であれば可
- ⑥材質は問わない

②車体に取り付けられないもの：

- ⑤コース材と競技車両の摩擦を軽減するための一切のもの。
- ⑥車軸と車輪の摩擦を軽減するための一切のもの（油脂類含む）。

※材料費は、だいたい500円/台以内の予定。

● 競技の方法（地区大会）

①基本は地区で競技を行います。

「IBグランプリ○○大会」

地区大会には原則として希望するスカウト全員が参加できます。（手続きは各地区で）

②コースは基本的に全地区で同じものとし、コースは基本的に直線です。ただし多少の上下左右の凸凹は発生します。コースの長さは今後決定します。

③コースの所定区間を通過する所要時間を競う、個人のタイムレースです

④出場する競技車両は、規定を満たしているかどうかを確認する「車検」を受けて、合格しなければなりません（車長・車幅・重量等）

⑤タイムは1/100秒の単位まで計測。③の実際の所要時間と県連が用意した基準車の所要時間との差を計時し、順位をつけます。

⑥スタート装置の操作、ゴールでの計測は、競技役員が行います。

⑦競技は、地区が定めた順番で、2台ずつで競います。

⑧B1、C1とも同じコース、同じ競技方法で行いますが、それぞれ別に表彰します。

● ランキング（県）ベスト10の決定

①各地区の大会の結果を集計比較して、県連のベスト10を決定します。

②競技の結果、競技の様子は、県連ホームページや県連facebookで発表します。

③県大会を開く場合もあります。

